

生物資源学部 生物資源学科

○ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、各授業科目、アドミッション・ポリシーの対応

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	各授業科目	アドミッション・ポリシー
<p>①倫理観・社会性:科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けを行うために必要な基礎的素養を身につけている。</p>	<p>ディプロマ・ポリシーで掲げた人材育成のために、一般教育科目、専門科目を体系的に編成しています。</p> <p>①科学・技術が自然や社会に与える影響を多面的に考え、生物資源の利用に当たって、責任ある方向付けに必要な基礎的素養を身につける。</p> <p>評価基準: 一般教育科目 8 単位以上 専門科目 14 単位以上を修得すること。</p>	<p>一般教育科目、人文社会科学系（外国語を除く）科目</p> <p>専門科目: 必修: 環境生物学 地域生物生産実習 生物資源学概論 技術者倫理</p> <p>選択: 15 科目 (詳細はシラバスに記載)</p>	<p>微生物から高等動植物まで多様な生物に興味と関心を持ち、分子から生物、さらに生態系にまで及ぶ広範な対象を取り扱う科学分野の勉学に強い意欲を持って取り組むことができる学生、生物資源にかかわる知識と技術をもとに、地域社会、日本、世界の人々の幸せのために将来働く意欲と希望を持った学生を求めます。生物資源学を大学で学ぶためには、高等学校等において、国語、英語、数学、生物、化学の基礎学力の習得が必要です。</p> <p>生物資源学部では、アドミッションポリシーで示した能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入学共通テストと個別学力検査を組み合わせた一般選抜のほか、学校推薦型選抜、総合型選抜を実施します。各選抜における審査の観点や判定方法等は、各学科がそれぞれ具体的に定めています。</p>
<p>②自然科学の基礎力:生命科学の幅広い理解と応用のために必要な基礎学としての数学と自然科学の知識および情報技術を身につけている。</p>	<p>②生命科学の幅広い理解と応用のための基礎として、数学、自然科学の知識および情報技術を身につける。</p> <p>評価基準: 一般教育科目 6 単位以上 専門科目 12 単位以上を修得すること。</p>	<p>一般教育科目、自然科学系科目</p> <p>専門科目: 必修: 数学基礎 生物学 I 化学 I 生物学 II 化学 II 応用生化学演習 植物資源学演習 (詳細はシラバスに記載)</p>	<p>＜一般選抜＞ 入学者の選抜は、大学入学共通テストおよび個別学力検査等の成績ならびに調査書の内容を総合して行います。大学入学共通テストで課している教科・科目について、高等学校での履修内容を十分に理解できているかを評価します。個別学力検査では、専門科目の学習に必要な知識、思考力、判断力、表現力を評価します。</p>
<p>③専門能力:生物資源の資源採取・加工・利用や自然界の保全に関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識を身につけている。</p>	<p>③生物資源の資源採取・加工・利用や自然界の保全に関する専門知識ならびにそれを応用する上で必要な知識を身につける。</p> <p>評価基準: 専門科目 38 単位以上を修得すること。</p>	<p>専門科目: 必修: 遺伝学 I 生化学 I 動物生理学 有機化学 一般微生物学 植物生理学 I 分析化学</p> <p>選択: 25 科目 (詳細はシラバスに記載)</p>	<p>入学者の選抜は、大学入学共通テストおよび個別学力検査等の成績ならびに調査書の内容を総合して行います。大学入学共通テストで課している教科・科目について、高等学校での履修内容を十分に理解できているかを評価します。個別学力検査では、専門科目の学習に必要な知識、思考力、判断力、表現力を評価します。</p>

<p>④情報収集能力・コミュニケーション能力：急速に変化する生命科学とそれにかかわる技術に対応するために必要な情報を収集でき、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけている。</p>	<p>④急速に変化する生命科学とそれにかかわる技術に対応するために必要な情報収集能力を身につけるとともに、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につける。 評価基準： 一般教育科目（外国語）8単位以上 専門科目6単位以上を修得すること。</p>	<p>一般教育科目、人文社会科学系（外国語）科目  専門科目： 必修： 科学英語 I 科学英語 II 専攻演習 （詳細はシラバスに記載）</p>	<p>&lt;学校推薦型選抜&gt; 入学者の選抜は、小論文および面接の成績ならびに調査書および自己推薦書の内容を総合して行います。 学部の教育理念に沿った小論文を課し、専門分野の学習に必要な論理的思考や表現力を評価します。面接試験において、目的意識や意欲、本学志望の動機、高等学校や地域などでの活動を総合的に評価します。</p>
<p>⑤課題解決能力：生命科学にかかわる技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設定・解決する能力を身につけている。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけている。</p>	<p>⑤生命科学に関する技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設計・解決する能力を身につける。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につける。 評価基準： 専門科目20単位を修得すること。  各科目の学修成果の評価は、科目ごとにその方法を設定しシラバスに明示します。</p>	<p>専門科目： 必修： 生物学実験 化学実験 応用生物学実験 生物化学実験 食品生化学実験 微生物学実験 分子生物学実験 植物資源学実験 環境生物学実験 生物物理化学実験 分子機能科学演習 分子生物学演習 卒業論文 （詳細はシラバスに記載）</p>	<p>&lt;総合型選抜&gt; 入学者の選抜は、出願書類（調査書を含む）、プレゼンテーションおよび面接の内容を総合して評価します。面接では、大学での学業への意欲と大学で学んだことを将来どのように活用して社会貢献したいかを確認します。 本試験では、特に、活動の過程における創意工夫、得られた結果に客観的な考察をして課題を解決しようとする能力を評価します。</p>

生物資源学部 創造農学科

○ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、各授業科目、アドミッション・ポリシーの対応

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	各授業科目	アドミッション・ポリシー
<p>① 知識・技術・経験：食・農・環境に関する広範囲な知識と技術を習得していると共に、経営戦略やマーケティング等を学び、経営感覚や新展開能力・開発能力を身につけている。</p>	<p>1年次では、多面的で柔軟な思考に基づく教養と語学力を養うために、一般教育科目を配置します。さらに、専門にかかわる体験学習を1年次からスタートします。外部講師の講義や見学学習も配置し、体験を通じた自主的な学びを重視します。</p>	<p>食農環境・文化概論 農業市場論 農業経営論 実践農業英語 蔬菜園芸学・同実験 花卉園芸学・同実験 果樹園芸学・同実験 雑草管理学・同実験 微生物利用学・同実験 育種学Ⅰ・Ⅱ・同実験 施設園芸学 作物学 食農環境実習Ⅰ・Ⅱ 食品加工実習 (詳細はシラバスに記載)</p>	<p>「食と農と環境」に興味と関心を持つとともに、これに関連する様々な体験をしたいという意志があり、将来、関連する分野で活躍しようという意欲と希望を持つ学生を求めます。</p>
<p>② 情報収集能力・コミュニケーション能力：急速に変化する技術に対応するために必要な情報を収集でき、自らの考えを論理的に表現し議論するための対話能力と文章作成能力を身につけている。</p>	<p>2年次以降は、食・農・環境に関する広範囲な講義に加え、さらに体験学習を強化します。体験を通じて持つ知的好奇心や知識欲に応えうる広範囲な講義を配置します。そのために、公設試験研究機関、農業法人・民間企業、生産者、6次産業者等との関係を密にし、実践者や研究者を招き、または、出向いて、地域性の高い課題からグローバルな課題の実践教育を行います。全ての講義、演習、実習を通して、自ら必要な情報を収集し課題を解決する能力、論理的な報告書が作成できる能力を育成します。未知の問題を解決する能力の育成のために、少人数教育による卒業研究を実施します。また、学生の希望により、学外における卒業研究も可能とします。生物資源学部は、卒業研究を4年間の集大成として位置付けます。</p>	<p>総合農学 総合的生物多様性管理論 先端農業技術活用論 食農環境演習Ⅰ・Ⅱ (詳細はシラバスに記載)</p>	<p>創造農学科で学ぶためには、高等学校等における幅広い基礎学力が必要です。さらに、自分の考えを自分の言葉で表現でき、他者と適切にコミュニケーションがとれるよう努力することが重要です。</p>
<p>③ 課題解決能力：技術的な課題を、安全や環境に配慮するなど、限られた条件の下で設定・解決する能力を身につけている。また、課題解決に向けて、互いに協力して仕事をする能力を身につけている。</p>	<p>学修成果の評価は、科目ごとに成績評価の方法を設定し、シラバスに明示します。</p>	<p>農業インターンシップⅠ・Ⅱ 地域農政論・同実験 地域森林利用論 農業戦略論 専攻演習 卒業論文 (詳細はシラバスに記載)</p>	